

- ¹²⁶吉川徹・木戸内清・杉浦克明(2002). 公務災害認定申請事例からみた針刺し・切創事例の検討. 感染症学. 76 臨増. P.221.
- ¹²⁷李宋子・八幡眞理子・清水由欣子・高橋京子・西庄京子・西村善博・木下承・荒川創一・守殿貞夫(2004). 本院における安全器材導入後の針刺し状況の推移と医師・看護師の教育効果. 環境感染. 19(1). p.157.
- ¹²⁸米山啓一郎(1999). 特集 院内感染 3. 針刺し・切創事故による感染と予防 ー全国調査報告と昭和大学病院の実態の比較ー. 昭和医学会誌. 59(5). pp.496-501.
- ¹²⁹田村秀代・吉田悦子・伊藤はつ子・五藤康子・伊藤禎高(2004). 当院の針刺し状況の問題点と対策ー過去 6 年間のエビネットデータよりー. 看護感染. 19(1). p.154
- ¹³⁰吉川徹・木戸内清・杉浦克明(2002). 公務災害認定申請事例からみた針刺し・切創事例の検討. 感染症学. 76 臨増. P.221.
- ¹³¹鈴木孝雄・落合武徳(2002). 医療従事者の針刺し・切創事故の実態と対策ー千葉県全 299 病院を対象にしたアンケート調査の結果からー. 日医雑誌. 127(6). pp.913-918
- ¹³²細谷隆一・高橋綾子・四方田幸恵・矢部茂季・小林吉乃・静玲子・福村幸仁・村上正巳(2003). EPINet により解析した当院における針刺し事故現状. 臨床病理. 51 補冊. pp.251.
- ¹³³和田寿子・辻みえ子・笹秀典・川合義恵・高橋博人(1999). 東北方面隊における針刺し事故実態調査 ー衛生科隊員の針刺し事故経験及び事故防止策に関してー. 防衛衛生. 46(10). pp.329-335.
- ¹³⁴森近豊(2001). 当院での針刺し切創事故等による職業感染事故の最近 7 年間変遷. 広市病医誌. 17. 7-18.
- ¹³⁵高橋陽子・腰原公人・藤田進・守谷研二・山中晃・川田和秀・渡辺潤・萩原剛・西田恭治・天野景裕・香川和彦・新井盛夫・福武勝幸(1999). 針刺し事故発生状況と、針刺し事故により感染・発症したウイルス性肝炎の 3 症例. 東京医科大学雑誌. 57(5). 540.
- ¹³⁶細谷隆一・高橋綾子・四方田幸恵・矢部茂季・小林吉乃・静玲子・福村幸仁・村上正巳(2003). EPINet により解析した当院における針刺し事故現状. 臨床病理. 51 補冊. pp.251.
- ¹³⁷鈴木孝雄・落合武徳(2002). 医療従事者の針刺し・切創事故の実態と対策ー千葉県全 299 病院を対象にしたアンケート調査の結果からー. 日医雑誌. 127(6). pp.913-918
- ¹³⁸和田寿子・辻みえ子・笹秀典・川合義恵・高橋博人(1999). 東北方面隊における針刺し事故実態調査 ー衛生科隊員の針刺し事故経験及び事故防止策に関してー. 防衛衛生. 46(10). pp.329-335.
- ¹³⁹菊池幸代・黒田かよ子・成島泰子・吉田公代(2003). 安全委員会からみた 5 年間の針刺し事故の傾向と対策. 日本農村医学会雑誌. 52(3). p.602.
- ¹⁴⁰森近豊(2001). 当院での針刺し切創事故等による職業感染事故の最近 7 年間変遷. 広市病医誌. 17. 7-18.
- ¹⁴¹田村秀代・吉田悦子・伊藤はつ子・五藤康子・伊藤禎高(2004). 当院の針刺し状況の問題点と対策ー過去 6 年間のエビネットデータよりー. 看護感染. 19(1). p.154
- ¹⁴²細谷隆一・高橋綾子・四方田幸恵・矢部茂季・小林吉乃・静玲子・福村幸仁・村上正巳(2003). EPINet により解析した当院における針刺し事故現状. 臨床病理. 51 補冊. pp.251.
- ¹⁴³岡一大・野呂里美・青山和子・監物ヒロ子・島田敏樹(2004). 当院における針刺し事故の現状分析と課題. 環境感染. 19(1). P.157.
- ¹⁴⁴吉川綾子・長谷川京美・崎山昌代・副濱和子・西村強・平文典・奥本満美・古仲敦・大里恭章・古久保ますみ・遠藤歌士夫(2004). HIV 感染を想定した針刺し事故シミュレーション実施と検討. 環境感染. 19(1). P.156.
- ¹⁴⁵山野裕二郎・牟田毅・高橋和明・佐々木勉(2003). 針刺し事故により HTLV-1 が感染したと考えられた 1 例. 臨床血液. 44(8). pp.845.
- ¹⁴⁶榎本祥太郎・白木達也・藤井靖成・井本和也・山根広志・東克彦(1999). 針刺し事故による C 型急性肝炎の 2 治療. 会報 第 67 回和歌山医学会総会. 50(4). p.366.
- ¹⁴⁷高橋陽子・腰原公人・藤田進・守谷研二・山中晃・川田和秀・渡辺潤・萩原剛・西田恭治・天野景裕・香川和彦・新井盛夫・福武勝幸(1999). 針刺し事故発生状況と、針刺し事故により感染・発症したウイルス性肝炎の 3 症例. 東京医科大学雑誌. 57(5). 540.
- ¹⁴⁸森茂紀・渡辺文朗・柳沢善計・村山久夫・野本実(2000). 針刺し事故後に発症した急性 C 型肝炎の 1 例. 新潟医学会雑誌. 114(4). p.173.
- ¹⁴⁹山野裕二郎・牟田毅・高橋和明・佐々木勉(2003). 針刺し事故により HTLV-1 が感染したと考えられた 1 例. 臨床血液. 44(8). pp.845.
- ¹⁵⁰玉置達紀・片井淳雄・中谷臣吾・永井勲(2002). 当院における針刺し事故時の対応プロトコールについて. 環境感染. 17(1). p.76.
- ¹⁵¹三木俊治(2003). 当院における針刺し状況(平成 8~14 年). 日生病院医学雑誌. 31(1).

Pp.69-70.

¹⁵²有山・林純・鍋島茂樹・柏木征三郎(1999). 九州大学付属病院における針刺し事故調査. 感染症学雑誌. 73(5). 504.

¹⁵³三木俊治(2003). 当院における針刺し状況(平成8~14年). 日生病院医学雑誌. 31(1).

Pp.69-70.

¹⁵⁴細谷隆一・高橋綾子・四方田幸恵・矢部茂季・小林吉乃・静玲子・福村幸仁・村上正巳(2003).

EPINetにより解析した当院における針刺し事故現状. 臨床病理. 51 補冊. pp.251.

¹⁵⁵鈴木孝雄・落合武徳(2002). 医療従事者の針刺し・切創事故の実態と対策—千葉県全299病院を対象にしたアンケート調査の結果から—. 日医雑誌. 127(6). pp.913-918

¹⁵⁶吉川徹・木戸内清・杉浦克明(2002). 公務災害認定申請事例からみた針刺し・切創事例の検討. 感染症学. 76 臨増. P.221.

¹⁵⁷有山巖・林純・鍋島茂樹・柏木征三郎(1999). 九州大学付属病院における針刺し事故調査. 感染症学雑誌. 73(5). 504.

¹⁵⁸玉置達紀・片井淳雄・中谷臣吾・永井勲(2002). 当院における針刺し事故時の対応プロトコールについて. 環境感染. 17(1). p.76.

¹⁵⁹森近豊(2001). 当院での針刺し切創事故等による職業感染事故の最近7年間変遷. 広市病医誌. 17. 7-18.

¹⁶⁰高橋陽子・腰原公人・藤田進・守谷研二・山中晃・川田和秀・渡辺潤・萩原剛・西田恭治・天野景裕・香川和彦・新井盛夫・福武勝幸(1999). 針刺し事故発生状況と、針刺し事故により感染・発症したウイルス性肝炎の3症例. 東京医科大学雑誌. 57(5). 540.

¹⁶¹森近豊(2001). 当院での針刺し切創事故等による職業感染事故の最近7年間変遷. 広市病医誌. 17. 7-18.

¹⁶²高橋陽子・腰原公人・藤田進・守谷研二・山中晃・川田和秀・渡辺潤・萩原剛・西田恭治・天野景裕・香川和彦・新井盛夫・福武勝幸(1999). 針刺し事故発生状況と、針刺し事故により感染・発症したウイルス性肝炎の3症例. 東京医科大学雑誌. 57(5). 540.

¹⁶³有山巖・林純・鍋島茂樹・柏木征三郎(1999). 九州大学付属病院における針刺し事故調査. 感染症学雑誌. 73(5). 504.

¹⁶⁴吉川徹・木戸内清・杉浦克明(2002). 公務災害認定申請事例からみた針刺し・切創事例の検討. 感染症学. 76 臨増. P.221.

¹⁶⁵森近豊(2001). 当院での針刺し切創事故等による職業感染事故の最近7年間変遷. 広市病医誌. 17. 7-18.

¹⁶⁶吉川徹・木戸内清・杉浦克明(2002). 公務災害認定申請事例からみた針刺し・切創事例の検討. 感染症学. 76 臨増. P.221.

¹⁶⁷高橋陽子・腰原公人・藤田進・守谷研二・山中晃・川田和秀・渡辺潤・萩原剛・西田恭治・天野景裕・香川和彦・新井盛夫・福武勝幸(1999). 針刺し事故発生状況と、針刺し事故により感染・発症したウイルス性肝炎の3症例. 東京医科大学雑誌. 57(5). 540.

¹⁶⁸森近豊(2001). 当院での針刺し切創事故等による職業感染事故の最近7年間変遷. 広市病医誌. 17. 7-18.

¹⁶⁹三木俊治(2003). 当院における針刺し状況(平成8~14年). 日生病院医学雑誌. 31(1).

Pp.69-70.

¹⁷⁰細谷隆一・高橋綾子・四方田幸恵・矢部茂季・小林吉乃・静玲子・福村幸仁・村上正巳(2003).

EPINetにより解析した当院における針刺し事故現状. 臨床病理. 51 補冊. pp.251.

¹⁷¹鈴木孝雄・落合武徳(2002). 医療従事者の針刺し・切創事故の実態と対策—千葉県全299病院を対象にしたアンケート調査の結果から—. 日医雑誌. 127(6). pp.913-918

¹⁷²有山巖・林純・鍋島茂樹・柏木征三郎(1999). 九州大学付属病院における針刺し事故調査. 感染症学雑誌. 73(5). 504.

¹⁷³玉置達紀・片井淳雄・中谷臣吾・永井勲(2002). 当院における針刺し事故時の対応プロトコールについて. 環境感染. 17(1). p.76.

¹⁷⁴有山巖・林純・鍋島茂樹・柏木征三郎(1999). 九州大学付属病院における針刺し事故調査. 感染症学雑誌. 73(5). 504.

¹⁷⁵有山巖・林純・鍋島茂樹・柏木征三郎(1999). 九州大学付属病院における針刺し事故調査. 感染症学雑誌. 73(5). 504.

¹⁷⁶有山巖・林純・鍋島茂樹・柏木征三郎(1999). 九州大学付属病院における針刺し事故調査. 感染症学雑誌. 73(5). 504.

¹⁷⁷三木俊治(2003). 当院における針刺し状況(平成8~14年). 日生病院医学雑誌. 31(1).

Pp.69-70.

- ¹⁷⁶細谷隆一・高橋綾子・四方田幸恵・矢部茂季・小林吉乃・静玲子・福村幸仁・村上正巳(2003). EPINetにより解析した当院における針刺し事故現状. 臨床病理. 51 補冊. pp.251.
- ¹⁷⁹玉置達紀・片井淳雄・中谷臣吾・永井勲(2002). 当院における針刺し事故時の対応プロトコールについて. 環境感染. 17(1). p.76.
- ¹⁸⁰細谷隆一・高橋綾子・四方田幸恵・矢部茂季・小林吉乃・静玲子・福村幸仁・村上正巳(2003). EPINetにより解析した当院における針刺し事故現状. 臨床病理. 51 補冊. pp.251.
- ¹⁸¹玉置達紀・片井淳雄・中谷臣吾・永井勲(2002). 当院における針刺し事故時の対応プロトコールについて. 環境感染. 17(1). p.76.
- ¹⁸²細谷隆一・高橋綾子・四方田幸恵・矢部茂季・小林吉乃・静玲子・福村幸仁・村上正巳(2003). EPINetにより解析した当院における針刺し事故現状. 臨床病理. 51 補冊. pp.251.
- ¹⁸³鈴木孝雄・落合武徳(2002). 医療従事者の針刺し・切創事故の実態と対策—千葉県全 299 病院を対象にしたアンケート調査の結果から—. 日医雑誌. 127(6). pp.913-918
- ¹⁸⁴細谷隆一・高橋綾子・四方田幸恵・小林良乃・静玲子・古田島伸雄・村上正巳(2003). 党員における針刺し事故の現状と防止に対する取り組み. 感染症学雑誌. 77(4). pp.279-280.
- ¹⁸⁵有山巖・林純・鍋島茂樹・柏木征三郎(1999). 九州大学付属病院における針刺し事故調査. 感染症学雑誌. 73(5). 504.
- ¹⁸⁶鈴木孝雄・落合武徳(2002). 医療従事者の針刺し・切創事故の実態と対策—千葉県全 299 病院を対象にしたアンケート調査の結果から—. 日医雑誌. 127(6). pp.913-918
- ¹⁸⁷吉川徹・木戸内清・杉浦克明(2002). 公務災害認定申請事例からみた針刺し・切創事例の検討. 感染症学. 76 臨増. P.221.
- ¹⁸⁸有山巖・林純・鍋島茂樹・柏木征三郎(1999). 九州大学付属病院における針刺し事故調査. 感染症学雑誌. 73(5). 504.
- ¹⁸⁹玉置達紀・片井淳雄・中谷臣吾・永井勲(2002). 当院における針刺し事故時の対応プロトコールについて. 環境感染. 17(1). p.76.
- ¹⁹⁰森近豊(2001). 当院での針刺し切創事故等による職業感染事故の最近 7 年間変遷. 広市病医誌. 17. 7-18.
- ¹⁹¹細谷隆一・高橋綾子・四方田幸恵・小林良乃・静玲子・古田島伸雄・村上正巳(2003). 党員における針刺し事故の現状と防止に対する取り組み. 感染症学雑誌. 77(4). pp.279-280.
- ¹⁹²菊池幸代・黒田かよ子・成島泰子・吉田公代(2003). 安全委員会からみた 5 年間の針刺し事故の傾向と対策. 日本農村医学会雑誌. 52(3). p.602.
- ¹⁹³細谷隆一・高橋綾子・四方田幸恵・小林良乃・静玲子・古田島伸雄・村上正巳(2003). 党員における針刺し事故の現状と防止に対する取り組み. 感染症学雑誌. 77(4). pp.279-280.
- ¹⁹⁴鈴木孝雄・落合武徳(2002). 医療従事者の針刺し・切創事故の実態と対策—千葉県全 299 病院を対象にしたアンケート調査の結果から—. 日医雑誌. 127(6). pp.913-918
- ¹⁹⁵細谷隆一・高橋綾子・四方田幸恵・小林良乃・静玲子・古田島伸雄・村上正巳(2003). 党員における針刺し事故の現状と防止に対する取り組み. 感染症学雑誌. 77(4). pp.279-280.
- ¹⁹⁶米山啓一郎(1999). 特集 院内感染 3. 針刺し・切創事故による感染と予防 —全国調査報告と昭和大学病院の実態の比較—. 昭和医会誌. 59(5). pp.496-501.
- ¹⁹⁷鈴木孝雄・落合武徳(2002). 医療従事者の針刺し・切創事故の実態と対策—千葉県全 299 病院を対象にしたアンケート調査の結果から—. 日医雑誌. 127(6). pp.913-918
- ¹⁹⁸鈴木孝雄・落合武徳(2002). 医療従事者の針刺し・切創事故の実態と対策—千葉県全 299 病院を対象にしたアンケート調査の結果から—. 日医雑誌. 127(6). pp.913-918
- ¹⁹⁹吉田京子・水口香代乃・中尾初美(2002). 針刺し事故実態調査と防止対策の効果.
- ²⁰⁰垣花シゲ・佐久田朝源・植村恵美子・具志堅美智子・與古田孝夫(2002). 在宅医療における針刺し・切創事故—その実態と関連要因—. 環境感染. 17(4). pp.315-319.
- ²⁰¹垣花シゲ・佐久田朝源・植村恵美子・具志堅美智子・與古田孝夫(2002). 在宅医療における針刺し・切創事故—その実態と関連要因—. 環境感染. 17(4). pp.315-319.